

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	滋賀県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	大津市立上田上小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	1	7	11
児童数	21	17	24	16	28	24	1	131	

研究の概要

1. 研究主題

自ら学び、ともに伸びる子ども
～総合的な学習の時間を核とした豊かな学びを求めて～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

12年 生活科
3～6年 総合的な学習の時間(本校では「青空」)

本校が考える学力は、生涯にわたって学んでいく力である。そのために、研究を進める上の視点として最も大切にしたいのは、子どもたちの実態からスタートするということである。あらかじめ定めた規準から、×と子どもの実態を論じるよりは、目の前にいる子どもたちのありのままの姿を見つめ、その姿に適しためあてを持って実践し、ありのままの変容を認めていかなければならない。その点から、内容から評価方法まで自由に工夫できる総合的な学習の時間を核として研究を進める。地域にあるもの、地域にいる人々、学校内の学びのための環境、それらを最大限利用して、今、目の前にいる子どもたちにできる限り適した実践を積む。そのような実践の中で培われた、自ら関わる力、学び合える集団は、総合的な学習の時間のみならず、教科の学習にも生きるものであると考える。

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 自ら学び、ともに伸びる子ども ～総合的な学習の時間を核とした豊かな学びを求めて～</p> <p>仮説 生活科や総合的な学習の時間で、子どもたちが身近に直面する課題を 学習主題として取り上げることによって、問題意識を大切にすることや、課題解決のための多様な方法を身につけることなど、一人ひとりの個に応じた学びが展開でき、このことが他教科の学習にも良い影響を及ぼすものとなる。</p>
--------	---

	<p>研究内容・方法</p> <p>地域素材を生かした体験学習の実践</p> <p> ゲストティーチャーを取り入れた活動の展開</p> <p>英語活動を取り入れた国際理解教育の実践</p> <p> 外国人講師による英語活動の試み</p> <p> コミュニケーション能力を育てる英語活動の試み</p> <p>基礎・基本の定着と発展的な学習を進めるためのT T指導のあり方</p>
--	---

平成15年度	<p>テーマ</p> <p>自ら学び、ともに伸びる子ども</p> <p> ～総合的な学習の時間を核とした豊かな学びを求めて～</p> <p>仮説</p> <p>生活科や総合的な学習の時間で、子どもたちが身近に直面する課題を学習主題として取り上げること、問題意識を大切にすること、課題解決のための多様な方法を身につけることなど、一人ひとりの個に応じた学びが展開できる。これが他教科の学習にも良い影響を及ぼす。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>地域素材を生かした体験学習の実践</p> <p> ゲストティーチャーを取り入れた活動の展開</p> <p>英語活動を取り入れた国際理解教育の実践</p> <p> コミュニケーション能力を育てる英語活動の確立</p> <p>基礎・基本の定着と発展的な学習を進めるためのT T指導の推進、習熟度別指導の試み</p>
--------	--

平成16年度	<p>テーマ</p> <p>自ら学び、ともに伸びる子ども</p> <p> ～総合的な学習の時間を核とした豊かな学びを求めて～</p> <p>研究の見通し</p> <p>子どもたちにいちばん適した形に教材を練り、出会わせる。学び合う仲間の力を育てながら、一人ひとりの自ら関わる力を育てる。特に、子どもたちの学びの状態を数値化する試みについて、挑戦を続ける。生活科、総合的な学習の時間から、さらに他教科へも実践を広げていきたい。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>地域素材を生かした体験学習の実践</p> <p> ゲストティーチャーを取り入れた活動の展開</p> <p>英語活動を取り入れた国際理解教育の実践</p> <p> コミュニケーション能力を育てる英語活動の確立</p> <p>基礎・基本の定着と発展的な学習を進めるための学習形態の工夫</p> <p>子どもの変容を数値化することへの試みと、それを生かした実践</p>
--------	--

(3) 研究推進体制

<ul style="list-style-type: none"> ・研究推進委員会（校長・教頭・教務主任・研究主任・学年部代表） ・補助金会計（教頭） ・全体研究会（全職員）
--

平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

地域素材を生かした体験学習の充実

地域素材を生かした学習を行うことで、取材活動や体験活動の過程で意欲的に自分から動く子どもの姿を見ることができた。何しろ、活動の対象や活動そのものが、自分の家や地域にあるので、すぐに行動できるからであろう。登下校時、また家でも何度も出会っている菜の花漬けや米作りの様子、多くの子が見慣れているのだが、そんな当たり前のようなことでさえ、実際に経験してみても初めて充実感や大変さがわかる、というのが、多くの子に共通した感想であった。子どもたちは取材の仕方や質問の仕方を、繰り返しながら身につけ、初対面の人に対しても、順序よく自分の用件を伝えられるようになってきている。

英語活動の有効性

昨年度とは違う先生だが、社会人活用による講師の楽しい英語活動で、内容も充実してきた。昨年度は職員も何しろ初めてのことで講師に任せてしまっているところもあったが、打合せを時間を取り丁寧に言い、主体的に授業に臨むようになっていく。講師抜きで本校教師のみで行う時間も生まれ、その姿勢はもちろん子どもたちの姿勢につながった。どの子たちも一年前よりは互いに声を出し、協力して課題に取り組むようになっていく。英語活動は、個人の力はもちろん、学び合える集団を育てることに大いに有効である。そしてこれらはもちろん他の教科の学習にもよい影響を与えている。

TT指導と教科担任制の工夫

小規模、加配教員なしという本校の条件の中で、TT指導をしたり、音楽、図工、理科、書写で教科担任制を取り入れる等の工夫をした。昨年度同様の成果はもちろんのこと、TTにより、一人でも多くの子の現状を見ることや、教科担任制により、教師の専門性や特質を生かした授業が一年にわたって展開できることの有効性をさらに実感することができた。

自主的な活動の中に見られる成果

本校の研究の成果として願っている子どもの姿が、子どもたちの自主的な活動の中に見られるようになってきた。

運動会の応援合戦

今年度初めて、たてわりグループ対抗の応援合戦を実施した。仲間内ではにぎやかなものの、人前でパフォーマンスなどはやや苦手としてきた子どもたちに色別の応援合戦をさせることは、大変意味があると同時に、教師たちにとっても不安はあった。しかし、予想以上に地域の人たちの前で、堂々と声を出し、練習を工夫し、思いを表現しきった子どもたちの姿には驚かされるほどであった。

放送委員会の活動

毎日給食時に放送委員会の子どもたちが当番で放送をしているが、その始めの部分の言葉を、自分たちで毎日工夫して行うようになった。

「今朝はすごく寒かったです、明日の朝はもっと寒いそうです。」
など、短い言葉でも自分で取材したことを全校に情報として伝えるという、ねうちのある一つの活動になっている。以前は原稿通りに進めること以上にはなかなか進まなかったが、この頃では自分で考えたコメントを伝えることが、継続してできている。

2. 今後の課題

新たな学習形態の工夫

少人数指導が各校で活発に行われているが、本校の場合、既に少人数である学年も多く、それをさらに分けるという方法もあるが、職員数も少なく、無理があ

る点が多い。そこで逆に、異学年の子どもたちで同時に学ぶことの効果をねらっていくのもよいと考えている。二学期より取り組んでいるが、来年度はさらに実践を進めたい。

子どもの変容の数値化とそれを生かした実践

本校の取組みでめざしているものは、具体的な子どもの姿である。これは標準テスト等で分析することは難しく、また成果として報告することでも説得力に欠けてしまいがちである。具体的な方法は、試行錯誤の中から見つけるしかないが、来年度もできる限り研究の成果を客観的な資料として、数値化することへの挑戦を続けたい。

総合的な学習の時間から教科等へ

総合的な学習の時間を窓口の研究を進めているが、めざしている子どもの姿はそれのみならず、もちろん他教科の学習や子どもたちの生活に表れることを願っている。

来年度は、実践を他教科に広げることも検討中である。

学力等把握のための学校としての取組み

子どもたちの学習前の状態を具体的におおよそ3段階に整理して見取り、学習の過程でそれぞれの子がどのように変容するかを見る。また、学習後の自己評価で、子どもたちの満足度を3段階で表させるなど、子どもたちの学びをできるだけ客観的に見取る手段を、引き続き追求する。

大津市が実施する「標準テスト」を詳しく分析し、指導の力点を明らかにするとともに、本校独自のものも検討していく。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

・今年度

7月1日に地区協議会を開催し、研究の経過を報告した。ホームページにも、校内研の概要として研究内容は載せている。また、12月には、徳島県から訪問があり、研究の取組み状況についてお知らせした。

・来年度

研究成果を地区協議会を開催して報告する。時期は未定。ホームページには、研究の進捗状況を随時更新して載せていく。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- | | | | | |
|----------------------|--|--|-------------------------------|-----------------------------|
| 【新規校・継続校】 | <input type="checkbox"/> 15年度からの新規校 | <input type="checkbox"/> 14年度からの継続校 | | |
| 【学校規模】 | <input type="checkbox"/> 6学級以下 | <input type="checkbox"/> 7～12学級 | | |
| | <input type="checkbox"/> 13～18学級 | <input type="checkbox"/> 19～24学級 | | |
| | <input type="checkbox"/> 25学級以上 | | | |
| 【指導体制】 | <input type="checkbox"/> 少人数指導
<input type="checkbox"/> 一部教科担任制 | <input type="checkbox"/> TTによる指導
<input type="checkbox"/> その他 | | |
| | 【研究教科】 | <input type="checkbox"/> 国語 | <input type="checkbox"/> 社会 | <input type="checkbox"/> 算数 |
| | <input type="checkbox"/> 生活 | <input type="checkbox"/> 音楽 | <input type="checkbox"/> 図画工作 | <input type="checkbox"/> 家庭 |
| | <input type="checkbox"/> 体育 | <input type="checkbox"/> その他 | | |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | <input type="checkbox"/> 有 | <input type="checkbox"/> 無 | | |